



映画雑感15

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼緊急事態宣言に伴う休館に見舞われた2021年前半の映画から。「すばらしき世界」は西川美和監督が佐木隆三の小説「身分帳」を原案に映画化。人生の大半を裏社会と刑務所で過ごしてきた男の再出発の日々が描かれます。不器用だがまっすぐな元殺人犯を役所広報が見事に造形。彼を取り巻く社会の現実にもリアリティがあります。

▼「けったいな町医者」は尼崎市の在宅医長

バーの国際映画祭でグランプリを受賞するなど国際的に高く評価された池田暁監督の第四作。一切の演技を排したシニカルな演出が架空の町で展開される寓話的世界にいざないます。映画の文法を超えた意欲作でした。

▼首都圏での映画館休業期間を挟んで100億円を超える興行収入を上げた今年最大の話題作「シン・エヴァンゲリオン劇場版」は、庵野秀明監督のヒットアニメシリーズの集大成物語。神話的世界に昇華、困難な中で映画を鑑賞する人々の心をつかみました。

▼S日小説の古典的名作の映画化作品「夏への扉」も半年に及ぶ公開延期を経てやっと日の目を見ました。さわめて現代的なストーリー展開が原作の力を感じさせます。ロボット

尾和宏の診察の現場を記録したドキュメンタリー。かつて病院勤務医時代に、「家に帰りたい」と言う患者の自殺をきっかけに町医者に転じた主人公の壮絶な生きざまを通して現代医療の不毛が浮き彫りになります。続いて公開された長尾の著書を原作とした劇映画「痛くない死に方」もよくできた作品でした。

▼「モンテッソーリ 子ども家」はイタリアにある幼児教育施設のドキュメンタリー映画。米国のオバマ元大統領も学んだ子供たちの創造性を引き出すメソッドは、最近の日本の早期教育とは全く違った真の教育のあり方を考えさせてくれます。

▼「きまじめ楽団のぼんやり戦争」は「山守クリップ工場の辺り」がロケットラムとバンク

を演じた藤木直人が秀逸。

▼山田洋次監督の「キネマの神様」は、主役の一方だった志村けんが撮影中にコロナ禍で急逝、急遽沢田研二を迎えてやっと完成した人情喜劇。青年時代を演ずる菅田将暉と永野芽郁、老年の夫婦役の沢田と宮本信子が全体として見事なハーモニーを作り上げています。

▼「映画太陽の子」は第二次大戦下の日本で原子核爆弾の開発に取り組んだ若き研究者たちの葛藤と彼らを取り巻く家族の姿を描きます。過剰な感情を排して、重いテーマを淡々と描き切った演出が光ります。特攻隊を志願して死ぬ主人公の弟を三浦春馬が好演。今年初め公開の「天外者」の五代友厚役と合わせ、失われた才能に哀惜の念を禁じ得ません。